

Title	低温センターのさらなる発展を祈念して
Author(s)	掛下, 知行
Citation	大阪大学低温センターだより. 2019, 169, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/76732
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

低温センターのさらなる発展を祈念して

阪大名誉教授 福井工業大学学長 掛下 知行

阪大にほぼ40年間お世話になり、2018年の3月31日に定年退職しました。この期間と北大での学生期間を通して、常に多量のヘリウムを用いた研究を行ってきました。それ故、ヘリウムは、私の旧知の友人ともいえる存在です。低温実験は、繊細でかつ細心の注意を必要とする場合が多く、したがって、様々なトラブルを生じることがあります。その際には、低温センターの教員と技術職員の方々に大変お世話になりました。どんなに難しいことでも、親身に、親切にそして丁寧に対応していただいたことがとても印象に残っております。また、良くご存知のように、最先端の研究ほど手づくりの装置製作が必要になります。この時にも、時間を惜しまずに相談してくださいました。これらの真摯な援助を思うと、私の研究は、まさに、低温センターの支えで成り立っていたと言えます。さらに、ヘリウムは、水道水と同じように、いつでも必要な時に蛇口を回すと出てくる感覚で使用させていただきましたが、これはそのような努力を低温センターの教員と技術職員の方々がしてくださっていたことを、後になって初めて知りました。この場をお借りまして、これらのご協力に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

この私が、ヘリウムを多量に使っていたこともあり、今度は管理する立場である低温センター長・副センター長を拝命し、併せて10年ほど兼任させていただきました。この間、様々な出来事がありました。特に印象に残っていることとして、米国の事情等により世界的な規模でヘリウム不足が起り、センターでもヘリウムの確保が十分にできず、多くの研究室・機関にご迷惑をおかけしたことがあげられます。幸いにも、事情が解決し平常になったときは、ほっとしたことを覚えております。また、センターの職員と技術職員のご協力で、両キャンパスのヘリウム液化装置の更新に対応できたことが、印象に残っています。両キャンパスともおなじ機種ですので、教職員の交流が一層図られ、低温センターの今後の発展がますます期待されます。それを楽しみに見守りたいと思います。

私事で申し訳ありませんが、2018年4月より福井工業大学の学長を務めさせていただいております。ここ福井の気候は、私の生まれた札幌のそれと似ており、故郷に帰ったような気がしています。札幌と異なるのは、福井県が、中国・韓国から近い位置にあるため、それら大陸との文化交流があり歴史的背景を色濃くしている点です。また、江戸時代は、親藩である松平家が治めていたこともあり、いわゆる城下町の趣があるとともに、橋本左内、由利公正、松平春嶽などの著名な人物を輩出しており大いに興味をそそられます。また、越前和紙をはじめとする巧みな工芸品の産地であるとともに1200年ごろに田楽が定着した文化も有しています。現在では、日本一暮しやすい県であるとともに小中での教育が一番である県として知られており、教育に関心がある私にはその要因は何かを考える機会を与えてくれると思っています。この地の文化を楽しみつつ、教育と研究に邁進したいと考えています。福井を訪れます時には、是非お立ち寄りください。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。